

目的 シルバーハウジングでは、高齢者への特別設備として、段差の解消、浴槽の落とし込み、手すりの設置などの配慮がされている。しかし、それらの具体的な設備内容・構造は設置主体によりまちまちであり、居住者の使用実態及び使い勝手については必ずしも明かにされていない。これらの設備が居住者にどのように使われているのか、また使用上の問題点は何かを明かにすることを目的とした。

方法 調査方法は第1報と同様であるが、設備評価のために入居者に実際に動作を行ってもらい、使用状況を観察するとともに、写真撮影、寸法計測による検討も行った。

結果 手すりの使用状況は、実際に使用している人はまだ2割以下で少なかった。しかし、浴室では5割近く使用されている例もあったが、浴室プランによっては手すりの設置位置に検討の余地が残されていた。浴槽は落とし込みにしてあるが、その深さに不便さを訴える例もあった。トイレについては、前住居より使い勝手がよくなったという人が大半であった。とくに洗面所とトイレが一体となったプランは、その利用者からの評価は高かった。台所については、流し台の高さ、蛇口の形体、吊り戸棚、出窓などの不便さが訴えられた。また、給湯設備の操作方法のわかりにくさや文字の見にくさが指摘された。車椅子対応につくられた引戸に関しては、玄関戸の重さ、閉まるスピード、戸の下のすきま、トイレの戸の重さに問題点が挙げられた。